

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組概要】

番号	3-1-全1	分類	全体	担当課	経営企画課、運輸サービス課、事業計画課、営業課	戦略	まちづくりへの貢献	年度	R7	
取組	公共交通を中心とした交通体系の充実				個別取組	公共交通の利用促進施策との連携				
概要	【せんだいスマートとの連携】 「せんだいスマート」は、公共交通利用促進に向けたソフト施策で、公共交通を利用することで、健康面や生活のものがスマートになることを目指します。交通局においても転入者、大学生、小学生等ターゲットに合わせた情報発信に努めるほか、路線図や運行系統図、時刻表の表記の見直しを図る等、利用方法がよくわからないという方にも、十分な周知を行うことで、車やバイク等の交通手段から公共交通への転換が進むよう取り組みます。 【公共交通利用促進イベントとの連携】 「交通フェスタ」への参加や、「バス・ちか祭り」等の開催を通じて、公共交通の利用促進PR等を行います。 【パークアンドライド（※1）、パークアンドバスライド（※2）の実施】 地下鉄周辺の駐車場、バス営業所に自家用車を駐車（パーク）し、市バスまたは地下鉄に乗り換えて勤務先または通学先へ移動（ライド）するパークアンドライド、パークアンドバスライドを継続して実施します。 【自転車施策との連携】 地下鉄駅への公共駐輪場の確保等の自転車施策と連携し、自転車と地下鉄を組み合わせ移動の利便性向上を図ります。									
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
予定	転入者、大学生、小学生等ターゲットに合わせた情報発信の検討・実施 現在の各情報提供物（路線図や運行系統図、時刻表）の表記の見直し・改善 どこバス仙台のサービス拡張の検討 パークアンドライド・パークアンドバスライドの実施									
これまでの取組み状況	仙台市等が実施するモビリティ・マネジメント（※3）へ協力することで自動車から公共交通への利用転換を図り、市バス・地下鉄の利用を促進してきた。引き続きせんだいスマートとの連携や各種イベントとの連携、パークアンドライド、パークアンドバスライドを実施していく。 なお、交通局ウェブサイトでパークアンドライドの空き状況や利用者募集のお知らせを実施している。 【パークアンドバスライド】 ・PRポスター掲出、情報誌S-Styleへの募集記事掲載（R3） ・露の目営業所で実施（R3～R7） 【公共交通利用促進PR】 ・各種イベントとの連携（せんだいクラシックフェスティバル、ガスフェア（R4）、全国都市緑化仙台フェア、ガスフェア、子育てフェスタ（R5）、「Pokémon GO Fest 2024: 仙台」、「東北絆まつり」、ガスフェア（R6）、ドラゴンクエストウォーカーキング＜東北＞、ガスフェア（R7））（◆2-1-全1に関連記載あり） ・仙台MaaSポケモンスタンプラリー（R4、R5）（◆3-1-全2、3-2-全2に関連記載あり） 【ダイヤ改正関係】 ・情報提供物の見直し内容検討（R3、R4）、配布用時刻表の廃止 【どこバス仙台】 ・機能拡張検討（R3、R5）、機能改修（英語案内開始）（R4） ・モニターアンケート調査実施（R4） 【せんだいバスFREE+（※4）】（◆1-3-全1、2-1-全2に関連記載あり） ・IC乗車券システムの改修、販売窓口等の広報（R6） 【その他】 ・「仙台市若年・子育て世帯住み替え支援」対象者へのicscaポイント付与（R5～） ・局主催イベントのほか市主催イベント等に出展、南北線新型車両のPRを実施（延べ7日間）（R6）									

【年度計画及び実績】

課題	・令和6年10月より都市整備局主導の「せんだいバスFREE+」が制度開始となったため、広報等について、都市整備局と連携して行っていく必要がある。特に、せんだいバスFREE+は学都仙台フリーバスと販売窓口が異なるため、分かりやすい広報を行う必要がある。 ・露の目営業所でのパークアンドバスライドについて利用件数が伸びず空きが目立つ状況にある。		
実施内容	・せんだいバスFREE+について、都市整備局と連携して、販売窓口等の広報を行う。 ・モビリティ・マネジメントの実施にあたり、ターゲットに合わせた方法により情報発信を行う。 ・仙台市のイベント等と連携し、公共交通利用を推進する。 ・パークアンドライド、パークアンドバスライドを実施するとともに交通局ウェブサイト で空き状況の公表や利用者募集等を行う。	数値 目標	・仙台市のイベント1件以上と連携し、来場者に公共交通利用を促すことでモビリティ・マネジメントを推進する。
	予定		実績
上期	【公共交通の利用促進PR】 ・4月～ 仙台市内で開催されるイベントと連携し、公共交通利用促進PRを行う。		【公共交通の利用促進PR】 ・4月～ 仙台市内で開催されるイベントと連携し、公共交通利用促進PRを実施
下期	【公共交通の利用促進PR】 ・10月～ 仙台市内で開催されるイベントと連携し、公共交通利用促進PRを行う。 【仙台市若年・子育て世帯住み替え支援事業協力】 ・10月 支援対象世帯へのicscaポイント付与		【公共交通の利用促進PR】 ・10月～ 仙台市内で開催されるイベントと連携し、公共交通利用促進PRを実施 （ドラゴンクエストウォーカーキング＜東北＞、交通フェスタ、ガスフェア等） ・パークアンドライドの空き状況により、11月、12月、1月、2月に利用者の抽選を実施した。 【仙台市若年・子育て世帯住み替え支援事業協力】 ・10月 支援対象世帯の内、icscaポイント付与希望者95名へポイントを付与した。
定期的な取組み	・公共交通利用促進PRについて、効果的なターゲット層と情報発信方法を検討する。 ・せんだいバスFREE+について、都市整備局と連携して、販売窓口等の広報を行う。 ・関係部署・バスロケーションシステム開発業者とのサービス拡張案についての検討 ・パークアンドライド、パークアンドバスライドの継続、交通局ウェブサイト で空き状況や利用者募集のお知らせ		

【令和7年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・市内イベントと連携し、仙台MaaSによるデジタルチケットの販売や、小児運賃無料化実証実験を行うことで、公共交通利用促進のPRを行った。 ・パークアンドライド、パークアンドバスライドを継続し、交通局ウェブサイトで空き状況や利用者募集のお知らせを行った。	数値目標の達成状況	「ドラゴンクエストウォーカーキング＜東北＞」との連携や、市主催イベント（交通フェスタ、ガスフェア等）への出展を通じ、来場者に向け公共交通利用を促すことができた。（イベント1件以上）
次年度に向けて	・仙台MaaSによるデジタルチケットの販売や小児運賃無料化の本格実施など、公共交通利用促進に繋がる施策を検討・実施する。 ・パークアンドライド、パークアンドバスライドを継続するとともに、交通局ウェブサイトで空き状況や利用者募集のお知らせを行う。				

【備考】

※1 「パークアンドライド」とは、自動車を郊外の鉄道駅等の周辺に停めて、鉄道に乗り換えて目的地に向かうというものです。仙台市交通局では、泉中央駅周辺及び長町南駅周辺で実施しています。 ※2 「パークアンドバスライド」とは、自動車を郊外の専用駐車場に停めて、バスに乗り換えて目的地に向かうというものです。仙台市交通局では、市バス露の目営業所で実施しています。 ※3 「モビリティ・マネジメント」とは、1人1人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向（過度な自動車利用から公共交通等を適切に利用する等）に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策のことです。 ※4 セんだいバスFREE+については、下記リンクよりご確認ください。 仙台市ウェブサイト「パークアンドライド・パークアンドバスライドについて」（外部サイトを表示します） 仙台市交通局ウェブサイト「パークライド」（外部サイトを表示します） 仙台市交通局ウェブサイト「パーク&バスライドのご利用について」（外部サイトを表示します） 仙台市ウェブサイト「新たな学生フリーバス制度（せんだいバスFREE+）について」（外部サイトを表示します）											
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	3-1-全2	分類	全体	担当課	経営企画課、運輸サービス課、事業計画課、営業課		戦略	まちづくりへの貢献		年度	R7
取組	公共交通を中心とした交通体系の充実			個別取組	都心の回遊促進施策との連携						
概要	【都心の回遊促進に係る事業との連携】 定禅寺通活性化推進事業をはじめとする、都心の回遊促進に係る事業について、交通事業者として連携していきます。 【都心部における均一運賃制度の実施】 都心バス均一運賃（120円）や市中心部地下鉄均一運賃（210円）（※1）を関係者と連携しながら継続して実施します。										
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
予定	都心エリア限定の一日乗車券の販売検討・実施										
	市中心部地下鉄均一運賃（210円）の実施										
	120円パッ区の実施										
	定禅寺通活性化事業、青葉通再整備事業について関係機関と連携										
これまでの取組み状況	仙台市の交通政策の指針である「せんだい都市交通プラン」（※2）における「公共交通を利用した都心の回遊の促進」に係る取組みと連携し、賑わい創出に向けた都心交通環境の再構築に貢献するため、都心バス均一運賃（120円）や市中心部地下鉄均一運賃（210円）を導入してきたところである。今後も継続した均一運賃制度を実施するとともに更なる都心回遊の促進のため、新券種の検討及び認知度の向上に努める。 【均一運賃制度】 都心バス均一運賃（120円）や市中心部地下鉄均一運賃（210円）の継続実施 【仙台MaaS】（※3）（◆3-1-全1、3-2-全2に関連記載あり） ・令和3年10月から令和5年3月まで新券種「120円パッ区一日乗車券」の実証実験を実施。令和5年4月から本格実施。 ・令和4、5年度に仙台MaaSポケモンスターラリーと連携し「120円パッ区一日乗車券」をPR。 【他の取組み】 ・公共交通ワーキンググループにおいて、都心循環線及び都心内路線の見直しについて議題に上がっている。										

【年度計画及び実績】

課題	都心回遊の更なる促進のため、既存券種の認知度向上や利便性の高い券種の作製検討が必要。				
実施内容	・都心バス均一運賃（120円）、市中心部地下鉄均一運賃（210円）の継続。 ・仙台市と連携し、120円パッ区一日乗車券を仙台MaaSへ引き続き搭載するとともに、多様な媒体での紹介やイベントとの連携等により認知度の向上を図ること販売枚数の増加につなげる。			数値目標	・120円パッ区で前年度の利用人数を上回る。 ・120円パッ区一日乗車券について、前年度の販売枚数を上回る。
	予定			実績	
上期				・各種協議会やワーキンググループへ参画	
下期				・各種協議会やワーキンググループへ参画	
定期的な取組み	・120円パッ区の実施 ・市中心部地下鉄均一運賃（210円）の実施 ・120円パッ区一日乗車券の販売及びPR ・各種協議会やワーキンググループへの参画			・120円パッ区の実施 ・市中心部地下鉄均一運賃（210円）の実施 ・120円パッ区一日乗車券の販売及びPR ・各種協議会やワーキンググループへの参画	

【令和7年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・都市整備局が主導で行うワーキングに毎月参画し、都心内バスの運行効率化や利便性向上について協議を進めている。 ・120円パッ区と市中心部地下鉄均一運賃（210円）を継続し、都心部における公共交通利用促進を図った。 ・「120円パッ区一日乗車券」を引き続き仙台MaaSで販売した。	数値目標の達成状況	・120円パッ区利用人数 R6：1,289,942人 R7：1,294,956人（+0.4%） ・120円パッ区一日乗車券販売枚数 R6：367枚 R7：348枚（-5.2%）
次年度に向けて	・引き続き各種協議会やワーキンググループへ参画し、運行効率化や利便性向上、都心回遊の更なる促進を図っていく。 ・引き続き120円パッ区と市中心部地下鉄均一運賃（210円）について利用状況を注視し、より効果のある制度の実現に向け検討を継続して行う。 ・令和8年10月の市バスの運賃改定に伴う都心バス均一運賃制度改正に向けて関係各所との調整を進める。 ・令和8年度策定予定の「市バス路線のあり方に係る基本方針」の検討においては、都市整備局所管の次期地域公共交通計画の策定と調整する。				

【備考】

※1 「市中心部地下鉄均一運賃（210円）」及び「120円パッ区」については、下記リンクよりご確認ください。 仙台市交通局ウェブサイト「お得な運賃制度・乗車券」				
※2 「せんだい都市交通プラン」については、下記リンクよりご確認ください。 仙台市ウェブサイト「せんだい都市交通プラン」（外部サイトを表示します）				
※3 「仙台MaaS」とは、仙台市が令和3年10月より実施している、スマートフォン等で目的地までのルートや移動手段、さらには街なかの飲食店・イベント等の検索・予約・決済に至るまでを一括して行える仕組みです。詳しくは、下記リンクよりご確認ください。 【仙台MaaS】（外部サイトを表示します） 仙台市ウェブサイト「仙台MaaS推進」（外部サイトを表示します）				

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	3-1-全3	分類	全体	担当課	経営企画課、輸送管理課、運輸サービス課、営業課			戦略	まちづくりへの貢献		年度	R7
取組	公共交通を中心とした交通体系の充実				個別取組	フィーダーバスの利便性向上						
概要	鉄道にバスが結節する交通体系の構築に向けて、東西線結節駅周辺バス均一運賃（100円）（※1）を継続し、東西線の主要駅（八木山動物公園駅、薬師堂駅、荒井駅）に接続する路線バス（フィーダーバス）（※2）の利便性向上を図ります。											
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12		
予定	東西線結節駅周辺バス均一運賃制度の継続											
これまでの取組み状況	・地下鉄東西線の開業に合わせ、平成27年に東西線結節駅周辺バス均一運賃制度を導入した。一般会計からの補助を受け実施している。											

【年度計画及び実績】

課題	公共交通利用の拡大を図るため、東西線の主要駅に接続する路線バスの利便性の向上が必要。		
実施内容	仙台市と連携し、東西線結節駅周辺バス均一運賃制度を継続する。		数値目標
	予定	実績	
上期		・ R8年4月ダイヤ改正に向け、バスの運行状況等を調査。	
下期		・ 薬師堂駅および荒井駅における地下鉄との接続を考慮した時刻調整の実施。	
定期的な取り組み	東西線結節駅周辺バス均一運賃制度の継続実施		東西線結節駅周辺バス均一運賃制度の継続実施

【令和7年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・東西線結節駅において、市バスへの乗継間隔が十分に確保できるよう、遅延状況や運行状況を管理している。 ・薬師堂駅および荒井駅における地下鉄との接続を考慮した時刻調整を実施し、乗り継ぎ利便性の向上を図った。 ・東西線結節駅周辺バス均一運賃制度を継続している。	数値目標の達成状況	
次年度に向けて	・地下鉄からバスへの乗り換えがスムーズに行えているか利用状況を調査し、必要に応じさらなる調整の検討を図る。 ・利用状況を踏まえ、東西線の主要駅とのフィーダー化による利便性向上に向け、必要な時刻調整を検討していく。 ・東西線結節駅周辺バス均一運賃制度を引き続き実施し、フィーダーバスの利便性向上を図る必要がある。 ・令和8年10月の市バスの運賃改定に伴う東西線結節駅周辺バス均一運賃制度改正に向けて関係各所との調整を進める。				

【備考】

※1 「東西線結節駅周辺バス均一運賃制度」については、下記リンクよりご確認ください。 仙台市交通局ウェブサイト【お得な運賃制度・乗車券】	
※2 「フィーダーバス」とは、交通網において、幹線と接続して支線の役割をもって運行される路線バスのことです。	
※3 「八木山ライン」については、下記リンクよりご確認ください。 仙台市交通局ウェブサイト【地域の移動手段確保に向けた取組みと連携】	

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	3-1-全4	分類	全体	担当課	事業計画課、営業課	戦略	まちづくりへの貢献	年度	R7	
取組	公共交通を中心とした交通体系の充実				個別取組	地域の移動手段の確保に向けた取組みとの連携				
概要	仙台市では、公共交通の利便性が低い地域において地域のニーズや移動の実態、交通需要の動向など、地域の実情に応じた地域主体の移動手段である乗合タクシー等の地域交通の導入を進めています。市バス・地下鉄が乗継ぎ等において連携を図ることにより、地域の移動手段の確保に向けた取組みを推進します。									
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
予定	・地域公共交通計画策定に参画									
これまでの取組み状況	【令和3年度】 ・公共交通ワーキンググループ（WG）（※1）に毎月参加。仙台市全域のOD・トラフィックデータ（※2）を都市整備局へ提出し、利用状況の把握を共有。 ・仙台市内の路線において、「幹線区間」「準幹線区間」「フィーダー区間」の3つに主要路線を区分した。 ・地域交通導入に係る地域との意見交換会に参加。（市内6箇所：田子、岡田、沖野・六郷、六郷東部、泉西部） 【令和4年度】 ・月に1度、公共交通WGに参加。 ・幹線区間と準幹線区間に該当し、当局と宮城交通㈱が運行している「動物公園線」をピックアップし、仙台駅から八木山動物公園駅までの停留所における運行間隔の均等化を検討（平日9：00～15：00の時間帯のみ）。 ・上記区間内において「統合時刻表」を作成し、利用客の多い停留所への掲載を検討。 ・将来的には都心内循環線を検討する予定。 ・地域交通導入に係る地域との意見交換会に参加（鶴巻地区）。 【令和5年度】 ・令和5年4月 当局と宮城交通㈱が運行している「動物公園線」のうち、仙台駅から八木山動物公園駅まで（八木山ライン（※3））の停留所における運行間隔の待ち時間の短縮・パターン化を実施（平日9：00～15：00の時間帯のみ）するとともに、曜日と時間帯の拡大を検討（平土休7：00～20：00台を調整） 【令和6年度】 ・昨年実施した「八木山ライン」における、待ち時間の短縮・パターン化を拡大、及び結果検証。 ・仙台駅前の回遊性・利便性向上について、公共交通WG内で検討。 【令和7年度】 ・次期地域公共交通計画策定に向けた現状分析を行い、公共交通ネットワークのエリア及び区間の設定など検討。 ・市バスと宮城交通バスの運賃体系の統一化について、公共交通WG内で検討。									

【年度計画及び実績】

課題	有識者を交えた、都市整備局主体のWGにおいて様々な検討をすすめているが、事業者間の運賃や各種サービスの違い等により事業者間の調整が懸案である。地域交通の導入については、事業者間や地域要望とのすり合わせが課題となっている。		
実施内容	・地域の実情に応じた移動手段の確保に向け、地域や関係機関と定期的に意見交換や情報共有を行う。 ・利便増進実施計画の各種施策の実施を検討する。	数値目標	
	予定	実績	
上期	4月 第1回公共交通WG（昨年の振り返り） 5月 第1回協議会（決算・予算の算定） 6月 第2回公共交通WG（利便増進実施計画について） 7月 第3回公共交通WG 8月 第4回公共交通WG 9月 第2回協議会（計画素案について） 9月 第5回公共交通WG	5月13日 第1回WG（次期地域公共交通計画策定に向けた検討） 6月3日 第1回協議会（策定スケジュール） 7月3日 第2回WG 7月24日 第3回WG 8月19日 第4回WG（現状分析結果） 9月2日 第2回協議会（現状分析結果まとめ）	
下期	10月 第6回公共交通WG 11月 第7回公共交通WG 11月 第3回協議会 12月 第8回公共交通WG 1月 第9回公共交通WG 2月 第10回公共交通WG 3月 第11回公共交通WG 3月 第4回協議会	10月17日 第5回公共交通WG 11月20日 第6回公共交通WG 12月5日 第3回協議会（中間フォローアップ） 1月14日 第7回公共交通WG 2月10日 第8回公共交通WG 3月4日 第9回公共交通WG 3月23日 第4回協議会（令和8年度予算）	
定期的な取組み	・地域交通導入に係る地域との意見交換会に適宜参加。 ・WGの協議内容について、都市整備局と意見交換の実施。	・地域交通導入に係る地域との意見交換会に適宜参加。 ・WGの協議内容について、都市整備局と意見交換の実施。	

【令和7年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・次期地域公共交通計画策定に向けた、各種協議会やワーキンググループに参画し、地域の実情に応じた移動手段の確保や、バスの利便性向上のさらなる促進について検討を行った。	数値目標の達成状況	
次年度に向けて	引き続き各種協議会やワーキンググループへ参画する。令和8年度策定予定の「市バス路線のあり方に係る基本方針」の検討においては、都市整備局所管の次期地域公共交通計画の策定と調整する。				

【備考】

※1	「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく法定協議会である仙台市交通政策推進協議会の実務担当者によるワーキンググループ
※2	ODデータ：券種別利用者の集計データ トラフィックデータ：停留所ごとの利用者数、通過時間の集計データ
※3	「八木山ライン」については、下記リンクよりご確認ください。 仙台市交通局ウェブサイト「地域の移動手段確保に向けた取組みと連携」